

# 行仙宿屋根トタンペンキ塗替え(残存下塗り)と

## 毛布干しほか

◇実施日；平成28年07月31日(日) 晴時々曇り、23℃  
 ◇参加者；川島 功、前田 正、生熊敏男、畑林秀味・清子、  
 橋本 梓、大江徳子、梶野照雄。 計8名。

去る六月十一日〜十二日、(株)齊藤鐵工所四名の応援を得て小屋屋根の下地ペンキ塗りを行った。

亜鉛メッキトタンの下塗りにはエポキシ樹脂塗料が適して、それを専用薄め液で調整して、その時四名が中心になり塗って頂いたが、二〜三割方残し塗料不足でやむなく次回にやることになっていた。

新宮からの七名は、今回残りの仕上げと小屋の毛布干しをメインに、良い天気と見込んで六時半、川島・畑林車の二台で出発。いつものコースの国道168号から311号に入り北山村大沼を通り8時に登山口へ。

荷揚げは少ないが、嵩張る1斗缶(もはらクリニツク寄贈)5個を積んだので、各荷物だけはモノレールへ積みそれぞれ登り出す。行仙宿に9時前に到着し、まず毛布干し場のロープ張り後、塗料の小分けと濃度の調整だがこれがなかなか難しい。

川島さんは塗料付着防止に、使い古しのつなぎ仕様保護服を薦めてくれるが、汗かき者では仕事にならない。幸いペンキが飛び散る程の風が無く着ないでやることにする。

まず三人(前田・川島・生熊)が屋根に上がって塗装に取り掛かる、後の者は毛布干しと雨樋の掃除に分かれて作業に掛かる。今回の下塗り塗料は、前回と色が違う白色塗料だが影響が無い

のだろう。



張りロープ・管理棟・行仙宿屋根等に毛布干し



波トタン用スポンジローラーを転がして塗ってゆくが、トタン止め釘に引っかかって破れてしまう劣化かも、仕方無しに普通の刷毛にかえて塗る。

前回、(株)齊藤鐵工所の皆さんのときは上手に塗れていた様に見えたが、我が輩の使い方が悪いのか、トタンが焼けている上に、塗料の希釈がまちまちだからすぐに固まってしまい、塗装面も斑が多く今回下地塗りだからいい様なものの、本塗りでは恥ずかしいものだ。



ペンキ塗り作業前



新規玄関屋根下塗り



前回塗残し箇所下塗り



ペンキ下塗り終える



昼食歓談中



10時過ぎに小休止するも正午までには一応下塗り、樋掃除、毛布干し(管理棟屋根にも干したので、下毛布32枚、上毛布60枚、計92枚と殆んど干すことが出来た)が略終わった。宿泊者は、梅雨時期に湿った毛布が干されたので、暫くの間気持ち良いことだろう。

毛布(92枚)を四つ折りに畳んだ、畑林・大江さん本当にお疲れ様でした。庇の樋掃除については、今のところ樋に掛けた網目(三ミリ)から通り抜けるゴミは、どうしようも無いと思う。もっと細かい網目があればいいと思うが、又少し樋に勾配があれば水の勢いで流れ落ちるのだが。水槽手前に泥溜めのようなものを取付けてその都度取り除けないかと思うが、何か他に良い方法が無いものか。

昼食を終えた一時間、最近山彦が購入した無線機で、本日行仙宿へ向かっている梶野さんと電波状態のテストを(浦向集落から可兼ねて、もうすぐ小屋を降りる旨を伝えて、作業道具及び宿内の片付けを済ませ14時前に下山する。

本日我々以外の登山者と言えば、10時頃だったか、会友の岡室 進さんが、ひよっこり登って来られ、継ノ窟へ行かれ帰りは小屋で昼食を済ませ、12時前に下山された。

下山すると登山口で待受けていた梶野さんと合流、梶野さんは、早速着いたモノレールの荷台へ荷物落下防止のボード板を手早く取付けて下さり、これで運転中も気にしないで安心できる。

丁度そこへ、いつもお世話になっている地元の地主・上平一郎前村長さんが見えられ、川島代表が挨拶されている、ご子息と山の見回りらしく、暫くしてから林道奥へ向かわれた。

本日全員での集合写真後、梶野さんはこれから行仙宿小屋へ配線ヒューズを取付ける為、行仙宿へ上ると言う。

沖崎氏調達の軽油・潤滑油を入れる頑丈な樹脂箱は、M機駐機地に据える様に梶野さんに依頼して帰ることに。天気も寸時怪しい時もあったが、雨に遇わず16時過ぎ新宮着。



トユ掃除後網張り中 荷台に側壁ボード取付け 本日の作業者

### 行動タイム

新宮 6:30→8:00 行仙宿登山口 8:05→8:45 行仙宿→10:15 休憩  
10:30→12:00 昼食 12:40→作業→持経宿 13:50→14:20 登山口  
14:55→16:10 新宮。(生熊 記)